

令和3年度  
興南高等学校  
入学試験問題

中期

国語

令和3年2月13日（土）実施 50分／100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。  
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は50分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、中学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。





【一】 次の文章を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。

英語の「I」<sup>アイ</sup>は、一般に「私」と訳される。中学校で英語をはじめて習うとき、そのように習い、だれもが「I」は「私」のことであるのはトウゼン<sup>a</sup>と思ひ、疑うことはない。

だが、心理学的にみると、「I」と「私」はまったく違った心の性質をあらわしているとわがざるをえない。その違いは、「I」と「私」という言葉の使われ方に端的にあらわれている。<sup>①</sup>

英語の「I」というのは、どんな文脈に置かれても「I」であることに変わりはない。友だちと飲んで騒いでいるときも「I」、家族団らんの場でも「I」、職場でも「I」、得意先の人を前にしても「I」である。どんな場面でも、「I」は「I」であり、姿形を変えることはない。

それに対して、日本語の「私」は、文脈によってその姿形を変えるのが常である。友だちと飲んで騒いでいるときは「オレ」になり、家族団らんの場では「お父さん」になり、職場でも同僚と話すときは「僕」となり、上司と話すときには「私」であり、得意先と話すときには「私」だったり「ウチ」や「弊社」<sup>\*1(へいしや)</sup>だったり、文脈によって変幻自在に姿形を変える。

このように英語の「I」の確固たる姿、だれが何と言おうと「I」は「I」なのだとも言いかのような確固たる姿。それに対して、相手がだれであるかによって姿形を変えていく日本語の「私」の揺らぎやすさ、相手との関係性がはっきりしないと形が定まらない不安定さ。それは見事に好対照をなしている。

**A** A どんな場面でも、いつも自信たつぷりに自分の意見や要求を主張する欧米人と、絶えず相手の出方をうかがいつつ相手に合わせて自分の出方を決めようとするおどおどとした日本人の姿を見るようだ。こうした対人場面における心のあり方の違いが、自<sup>\*2</sup>

称詞に端的にあらわれている。このような心のあり方の違いと言葉の用いられ方の違いの対応に目を向けると、私たちの心のあり方が言語によってつくられていることがわかる。

〈 中略 〉

私たち日本人が初対面の相手を前にしてキンチョウしがちなのも、相手との関係が定まらなないと、どんな言葉を使ったらよいかかわからないからだ。年齢関係、地位関係、役割関係、親密さなどによって、適切と見なされる言葉遣いやしゃべり方が違ってくる。相手との間柄がはつきり定まらないかぎり、言葉遣いもしゃべり方も決められないため、まずは探りを入れながら無難な会話をしていくことになる。

相手との関係性によって言葉遣いやしゃべり方が違ってくるということは、場<sup>③</sup>によって「自分」のあり方が違ってくるということでもある。

お互いを「お父さん」「お母さん」と呼び合う夫婦、「じっちゃん」「ばっちゃん」と呼び合う老夫婦は、日本の感覚からすれば何のイワカンもないし、日常ありふれた光景である。

**B**、これは欧米流の感覚からすれば、非常におかしなことに違いない。

「夫は妻のお父さんではないし、妻は夫のお母さんではないじゃないか。おかしんじゃないか」

「夫は妻のおじいちゃんではないし、妻は夫のおばあちゃんではない。それなのになぜそんな風呼び合うのか」

と、大いに疑問に思うことだろう。

しかし、このような呼び方は私たちにとってはごく自然なことだ。ここにも、自己主張をツツシ<sup>d</sup>み、相手に対する思いやりを中心に動く日本人の心の特徴があらわれている。

C、私たちは、自分にとっての妻であるということよりも、子どもたちにとっての母親であることを優先させる。自分にとっての夫であることよりも、孫たちにとってのおじいちゃんであることを優先させる。

自分を軸として動くのではなく、他者を軸として動くということが、すべてにおいて身に染みついているのである。

そのため、夫婦は、子どもたちにとっての「父」「母」として自己および配偶者をとらえ、孫にとっての「祖父」「祖母」としての自己および配偶者をとらえるということを、ごく自然に行うことができる。

これはまさに「I」に閉ざされた自己中心的な自己のあり方ではなく、他者に開かれた自己のあり方と言ってよいだろう。

グローバル化の時代に異文化同士が対立せず、理解し合い、キョウチヨウし合っていくためには、このような開かれた自己のあり方を広めていくことが大切なのではないだろうか。

【榎本博明 『ディベートが苦手、だから日本人はすごい』（朝日新書）より ※問題作成の都合上一部改変】

### 【語注】

\*1 弊社 自分の会社を謙遜していう語

\*2 自称詞 話し手、書き手が自分自身、または自分自身を含む仲間をさす語

問一 二重傍線部 a く e のカタカナ部分を漢字に改めよ。

a トウゼントウゼン と思い、疑うことはない      b 相手を前にしてキンチヨウしがち      c 何のイワカンイワカンもない

d 自己主張をツツシツツシみ、      e 理解し合い、キョウチヨウし合っていく

問二 空欄 A く C に入る語として最も適当なものを、次のアくオの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。(ただし、同

じものを用いてはならない。)

ア だが    イ しかも    ウ すなわち    エ あるいは    オ まるで

問三 傍線部①『I』と『私』という言葉の使われ方」とあるが、具体的にどのような使われ方か。「I」の使われ方の説明として最も適当なものを次のアくエから選び、記号で答えよ。

ア 場面によってその姿形を変え、それぞれの状況に適した形を選択する。

イ どのような文脈でも揺るがないため、相手の出方を忍耐強く待つことができる。

ウ 仕事とプライベートでその形を区別することで、自己の確立を支えている。

エ 相手が誰であつてもその形を変えず、シチュエーションに左右されない。

問四 傍線部②「私たちの心のあり方が言語によってつくられている」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 相手によって自称詞を使い分ける日本語と、自分の要求を主張する日本人の姿勢は、密接に関わっているということ。

イ 相手によって自称詞を使い分ける日本語と、他者を優先する日本人の心理傾向は、密接に関わっているということ。

ウ 最年少者のために自称詞を決定する日本語と、子どもを大切にしている日本人の価値観は、密接に関わっているということ。

エ 最年少者のために自称詞を決定する日本語と、自分を低く評価しがちな日本人の性質は、密接に関わっているということ。

問五 傍線部③「場によって『自分』のあり方が違ってくる」とあるが、その例として適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 孫がいる時は自分の娘を「お母さん」と呼ぶ祖父。

イ 生徒と話す状況では、「私」ではなく「先生」と自身を示す教師。

ウ 幼い男の子に対して、「きみ」ではなく「ぼく」と呼び掛ける大人。

エ 子どもの前では自分の夫に「パパ」と呼び掛ける女性。



問六 傍線部④「開かれた自己のあり方」の説明として適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 自我を通そうとせず他者への配慮をもとに行動しようとする、典型的な日本人の心の様子が表れていること。

イ 自分にとっての他者ではなく他者にとっての存在を中心におく、日本人が馴れ親しんできた他者との関わり。

ウ 「自己」という閉鎖的な存在である「I」ではなく、他者を含む社会環境により変化する「私」の存在。

エ 文化的な摩擦を避けるために相互理解を深め、異質な存在と協調していくことのできる新しい日本人像。

問七 この文章を読んだあと、「本文からわかったこと」について四人の中学生が意見を述べた。本文の内容を正しく踏まえていない意見を一つ選び、A～Dの記号のみで答えよ。

生徒A 「英語の『I』と日本語の『私』の違いから、欧米人と日本人の違いが分かるなんて驚いた。」

生徒B 「グローバル化といえば海外の文化に注目しがちだけど、自国の良い面を改めて見直すことも必要だと思った。」

生徒C 「無意識に環境によって自称詞を使い分けていたから、それが日本語の特徴の一つだと気付かなかった。」

生徒D 「他者に合わせる日本式のコミュニケーションだと、グローバル化の時代には対応できないと危機感を覚えた。」

※問題は次へ続く

【二】次のⅠ・Ⅱの文章（以下、本文とする）は「幸せって何だろう」というテーマで書かれたものである。本文を読んで後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。

Ⅰ

二〇一一年の春、雑誌の仕事でブータン<sup>\*1</sup>に行った。幸せな国の秘密を知る、というテーマだった。ブータンは、GNH (GROSS NATIONAL HAPPINESS) という、物質的な豊かさではなく、精神的な豊かさを幸福ととらえる独自の概念をもとに国づくりを行っている。二〇〇五年の国勢調査で国民の約97%が「幸せ」と回答したとのこともあり、当時「幸福度1位の国」と言われて注目されていた。

旅立ったのは震災の直後だった。ブータンで出会った人たちは、私たちが日本から来たことを知ると、皆「祈っています」と言うてくれた。本当に皆が。

ブータンでは、祈りが身近にあった。<sup>①</sup>「祈り」という「に入られたもの」ではなく、生活の一部として、とてもナチュラルに存在していた。もしかしたらそれが、幸福度1位の秘密なのだろうか、いろんな人にその理由を聞いた。当然ながら答えは様々だったけれど、一番心に残っているのはある村で出会った一人の女性だ。

その人はジャガイモが大量に詰め込まれた袋を背負っていた。少し持たせてもらったが、大きさではなく、ほとんど彼女の体重ほどの重さがあった（ブータンは女性が本当によく働く。こんな風に重いものも持つし、<sup>まき</sup>薪割りや家の修繕<sup>しゅうぜん</sup>などの力仕事もするとい<sup>う</sup>）。

あなたにとって幸せとは何ですか。そう聞くと、彼女は<sup>②</sup>「不思議な顔をした。質問の意味が分からない、という感じだった。通訳の方が一生懸命説明してくれて、彼女も長く考えて、やっと「家族がいること」とか「ご飯を食べられること」などと答えてくれ

ただのだけど、きっとそれはこちらのためになんとか考え出してくれた答えなのだと思う。本当は彼女は、「幸せとは何か」なんて考えもしないのだ。日々やることに追われて考えることなんて出来ない、ということももちろんあるだろうし、それ以上に幸福というものが**生活の巽**<sup>③</sup>の中にごく自然に存在しているからだろう。祈りと同じように。

「幸福って何だろう？」って考えるときって、人はもう、少しだけ不幸なのではないだろうか。「祈りとは何だろう？」と考えているときに祈ることが出来ないのと同じように。

幸福を求める前に、生活を大切にしよう。そう思った。幸福はその存在を忘れているときに一番輝くのだと、ブータンの村の、名前も知らないその女性が教えてくれた。

## II

We will meet again.

(わたしたちは再び会います)

<sup>\*2</sup>今年四月、<sup>\*3</sup>エリザベス女王はロックダウン中の英国の人々に向けて行ったスピーチの最後にこんな言葉を言った。これは第二次世界大戦中に英国で流行したヴェラ・リンの歌、『We'll Meet Again』<sup>\*4</sup>をもじった文句だ。英国には、この文句に泣かされた人が大勢いたらしい。このスピーチの後、ラジオでもテレビでも何度もこの古い曲がかかっていた。

しかし、考えてみればおかしな話だ。なぜなら、わたしたちはロックダウン中も親族や友人や同僚と会っていたはずだ。オンライン会議で話したり、会議したりして日常的に接触していたからだ。先日、<sup>\*5</sup>西加奈子さんとZ o o mで対談したときにそのことを話すと、彼女はこんなことを言っていた。<sup>④</sup>「ネットで**人類学者の記事**を読んだんですけど、他者への信頼は、視覚と聴覚だけじゃなくて、

嗅覚とか味覚とか触覚とかの感覚も使って築くものらしいです。だから、こうやってネットで話していることと実際に会うことはイコールではないみたいなんです」

記事のリンク<sup>\*7</sup>を教えてもらって読んでみたら、なるほど京都大学総長の山極壽一先生<sup>\*8</sup>がこんなことを言っていた。人間は、視覚と聴覚を使って他者と会話をすると脳で「つながった」と錯覚するらしいが、それだけでは信頼関係<sup>b</sup>までは担保できないという。なぜなら人は五感のすべてを使って他者を信頼するようになる生き物だからだ。その時、鍵になるのが、嗅覚や味覚、触覚といった、本来「共有できない感覚」なのだという。他者の匂い、一緒に食べる食事の味、触れる肌<sup>a</sup>の感覚。こうしたものが他者との関係を築く上で重要なのだそう。つまり、人間はまだ身体的なつながりのほうを信じているとも言える。そのうち脳のつながりだけで幸福を感じる人も出てくるかもしれないと山極先生は語っていた。しかし、いまのところは、人間は他者の身体を必要としているらしい<sup>⑤</sup>。オンラインでの「つながり」は「会う」こととは違う。それを本能的に知っているから、英国の人々も女王のスピーチの言葉に涙したのだろう。どんなにテクノロジー<sup>\*9</sup>が発達しても、いまだに人を幸福にするのは、「会う」よろこびなのである。

「どこかで絶対また会いましょう」

ビデオ通話を切るたびにわたしも女王みたいなことを言っていることに気づく。

早く人々が自由に移動できるようになり、失われた幸福な瞬間が世界中に戻ってくる日を待ちながら。

【Ⅰは西加奈子、Ⅱはブレイディみかこによる。ともに『J A F M a t e』2019 7/2020 8.9 ※問題作成の都合上一部改変】

【語注】

- \*1 ブータン  
ブータン王国、南アジアに位置する国で国教の仏教をはじめ信仰に厚い
- \*2 今年四月  
二〇二〇年の四月、世界中が新型コロナウイルスの影響の最中にある時期、後の「ロックダウン」は感染防止策として「都市封鎖」行われている状況
- \*3 エリザベス女王  
イギリスおよびその他の英連邦王国の女王
- \*4 ヴェラ・リン  
イギリスの女性歌手、女優
- \*5 西加奈子  
日本の小説家、代表作に『ふくわらい』などがあり、**I**の筆者でもある
- \*6 Zoom  
オンラインでミーティングなどを行うアプリケーションソフト
- \*7 リンク  
単語や画像がほかの情報に関連づけられていること
- \*8 山極壽一  
霊長類（ゴリラ・サルなどの動物）研究の第一人者
- \*9 テクノロジー  
科学技術

問一 二重傍線部 a「もじった」、b「担保できない」の意味として最も適当なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えよ。

- |   |        |   |        |   |        |   |        |   |            |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|---|------------|
| a | もじった   | ア | ねじった   | イ | ひねった   | ウ | よじった   | エ | 言い換えた      |
| b | 担保できない | ア | 保証できない | イ | 交換できない | ウ | 回復できない | エ | 避けることができない |

問二 傍線部①『祈り』という『』に入れられたもの』について以下の問いに答えよ。

1 「祈り」と「」に入っていない祈りの説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「祈り」は幸福でない時に幸福を願うもので、「」に入っていない祈りは未だ考えたことのない祈りの意で用いている。

イ 「祈り」は意識させられる状況下の祈りで、「」に入っていない祈りは日常的で意識されない祈りの意で用いている。

ウ 「祈り」は神頼みや合格祈願の意味で、「」に入っていない祈りは近所の神社仏閣で祈願する意味で用いられている。

エ 「祈り」はブータン国民各々の願いで、「」に入っていない祈りは貧しい生活からの解放を祈る意味で用いられている。

2 傍線部①のような「」の用い方をした場合、文章Ⅱの中の「つながった」はどのような意味として用いられているか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア つながったとは五感を全て駆使し親密になったの意味だが、「つながった」は異文化に属する人々が交流したという意味。

イ つながったとは困難な状況下で人々が協力したの意味だが、「つながった」はオンライン上で絆を確認したという意味。

ウ つながったとは国家を構成する国民が連帯意識を意識したの意味だが、「つながった」は頭で相互に理解したという意味。

エ つながったとは実際に会って信頼関係を築いたの意味だが、「つながった」は脳でつながったと錯覚しているという意味。

問三 傍線部②「不思議そうな顔をした」とあるが、筆者はこの理由についてどのように考えているか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 彼女は自身の生活の中に自然に幸せが存在しており、幸せについて考えたこともないため、幸せとは何かという質問の意味がわからなかったから。

イ 彼女は筆者が日本出身であること知り、生活環境に恵まれているにもかかわらず、幸せとは何かという質問をする意図が理解できなかったから。

ウ 彼女は通訳から筆者が日本から来たことを知らされ、震災で傷ついていることを推し量り、どう励ませばよいか複雑に考えを巡らせていたから。

エ 彼女は日々の祈りが幸せだと考えており、国民皆が同じ考えをもっている国を取材しているのに、あえて同じ質問を繰り返しすることに困惑したから。

問四 傍線部③「生活の羨」について以下の問いに答えよ。

1 筆者は「生活の羨」の中にあるものが幸福と述べているが、後の〈資料一〉を参考にし、「生活の羨」の意味はどのように考えることができるか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 意識されない日常生活   イ 忘れていた平穏な日々   ウ 起伏の多い人生   エ 他人のうかがいしれない悩み

〈資料一〉「襷」の意味

- (1) 衣服や布地などにつけた細長い折り目。(大辞泉より)
- (2) 衣服のひだのように見えるもの。精神的なものについてもいう。「山の襷」「心の襷に触れる」(大辞泉より)
- (3) 複雑で微妙な部分。「心の襷」(大辞林より)
- (4) 外からではわかりにくい、心中の複雑で微妙な部分。(日本国語辞典より)
- (5) キノコの傘の裏側にあるしわ。菌褶きんじゅう。(大辞泉より)

2 Ⅱの中では幸福とはどのようなものと述べられているか、文章中から八字で抜き出して答えよ。(句読点や記号も含む)

問五 傍線部④「ネットで人類学者の記事を読んだ」とあるが、〈資料二〉は実際のネットの記事の一部であり、Ⅱで要旨が引用されている部分に続く箇所である。記事はインタビュー形式で進行し、むくた椋田さんはインタビューをしている人、山極先生は受け手の人類学者である。インタビューの内容と進め方の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 椋田さんは山極先生の発言から理解したことを確認しながら進め、聞き手や読み手が分かり易くなるよう工夫している。

イ 椋田さんは山極先生の意見に傾聴しつつ、議論を深めるべく積極的に意見を述べ、不明点を明確にする質問をしている。

ウ 山極先生は椋田さんの理解に共感を示すことで進行に協力し、具体と一般、動物と人間を対比させテーマを深めている。

エ 山極先生は椋田さんの問いたいチームワークの話を中心に、専門家として人間の強味と弱みについて考えを述べている。



〈資料二〉

椋田さん…お話を伺っていると、人間は想像力を駆使して共感力を高め、脳でつながる方法をつくりあげてきたけれど、チームワークの基盤には身体的なつながりが不可欠のかなと思います。

山極先生…仲間と一緒に何かをするには身体化が必要なわけですよね。

ほら、よく部下が上司の「手足になる」と言うじゃないですか。お互いがあるプロセスを分担しながら、ひとつの生き物のように目的にアクセスするような身体感覚です。脳ではなく、身体でひとつになっている感覚が、チームワークには必要だと思います。

椋田さん…動物の群れがいつせいに同じ行動をするイメージに近いでしょうか。

山極先生…まさに。動物たちには目的はないけれど、群れでそういうことをしていますね。ただ、彼らは自分の利益がそこになければ、すぐに群れを離れたたり、群れを解体させてしまいます。

ところが人間の場合は、たとえ自らが不利益を被っても、時には自らの生命が危険にさらされても、チームを優先しようとする場合があります。脳でつくった目的やプロセスに身体をつなげてしまうんです。

戦争なんかも言ってしまうえばチームワークなんだろうけど……、あんなバカなことはないですね。

(出典 URL : <https://cybozushiki.cybozu.co.jp/articles/m001351.html>)

問六 傍線部⑤「人間は他者の身体を必要としている」とあるが、本文と〈資料二〉の内容を踏まえ「身体」をテーマに考えたことを持ち寄りパネルディスカッションを行った。パネリストAとDの意見のうち内容を正しく踏まえられていない意見を一つ選び、AとDの記号のみで答えよ。

- パネリストA 幸せのかたちは様々であろうが、脳だけで幸せを考えるのではなく「身体」に基づいた幸せを大切にしていこう。
- パネリストB ネットやオンラインでのつながりに満足せず、科学技術の長短を理解しながら脳でも「身体」でもつながっていこう。
- パネリストC 震災やコロナウイルスの災いの経験を、他者と「身体」で一つになることの価値を考えるきっかけにしてみよう。
- パネリストD 人は言葉によって共感力・想像力を高めたが、不安や不信も抱えるに至ったので、「身体」に基づく言葉を増やそう。

※問題は次へ続く

【三】次の文章は、「ねずみの談合」という話である。本文（原文）の左に示してあるものは対応する現代語訳である。次の原文を左の現代語訳を参考にしながら読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧記入せよ。

ねずみの大勢集まりて談合しけるは、「いつも、かの猫といふいたづら者に捕らるる時、千度悔ひても、その詮なし。かの猫、声

相談

わる賢い

その効果がない。

を立てるか、足音でもすれば、かねて用心して、捕られぬ覚悟をもするなれども、密かに近寄りて来るゆゑ、折々油断して捕らるるなり。いかにせば良からん」と言ひければ、一つのねずみ、進み出でて申しけるは、「それには何より良き手段あり。かの猫の首へ

どうしたらよいだろうか

鈴を付け置かば、たとえ足音はせずとも、こなたに油断はあるまじ」と言ふにぞ、皆々、「もつとも然るべし」と言ひけるが、大勢のねずみ中より、誰あつて「猫の首へ鈴を付けにいかう」と言ふ者なければ、つひに、その談合は止みにける。

「いかにもその通りだ」

そのごとく、人も後先の勘弁なく、了簡ありげに口をたたく者は、**I**に等しく、つひには恥をかくものなれば、**II**に等しく、口は禍ひ

後先をわきまえず、考えありげに

の門「と思ふべし」。

【II】より ※問題作成の都合上一部改変【

問一 二重傍線部 a～c の読みを、全て現代仮名遣いのひらがなで答えよ。

a かの猫といふいたづら者

b と言ふにぞ、皆々、

c 鈴を付けにいかう

問二 傍線部①「油断して捕らるるなり」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えよ。

ア ねずみが猫を見下しているから。

イ ねずみの用心が足りないから。

ウ 猫の悪知恵がひどいから。

エ 猫がこっそり近付いてくるから。

問三 傍線部②「何より良き手段」とはどうすることか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 猫への警戒心を高めること。

イ 猫の首に鈴を付けておくこと。

ウ 猫から逃げる覚悟を決めること。

エ 猫より知恵を磨くこと。

問四 傍線部③「こなたに油断はあるまじ」の現代語訳として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア こちらが油断することはないだろう。

イ こちらが油断するにちがいない。

ウ あちらが油断することはないだろう。

エ あちらが油断するからであろう。

問五 傍線部④「その談合は止みにける」というようになったのはなぜか。その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア ねずみが大勢集まって話したところで、猫の裏をかくことのできる策は思いつかなかったから。

イ ねずみがいかに猫を警戒して策をめぐらせたところで、猫には太刀打ちできないと思ったから。

ウ 大勢のねずみの中から猫にそなえる効果的な策が出たが、誰も実行しようとはしなかったから。

エ ねずみの話し合った内容が人間に知られてしまったため、計画がより実現困難になったから。

問六 空欄 I に当てはまる語句を本文中から三字で抜き出して答えよ。

問七 傍線部⑤『口は禍ひの門』と思ふべし」とあるが、本文の内容から「口は禍ひの門」とはどのような教えだと考えられるか。

最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア おしゃべりな者は嫌われる。      イ 話し合いは確かな解決策を生む。

ウ 言葉はつつしむべきである。      エ 沈黙がいちばんの解決策である。

問八 本文は江戸時代初期に古代ギリシアの寓話ぐわつわを翻訳したものである。空欄 II に当てはまる作品名として正しいものを次の

ア～オから選び、記号で答えよ。

- ア 伊勢物語      イ 平家物語      ウ 栄花物語      エ 源氏物語      オ 伊曾保物語

※問題は以上